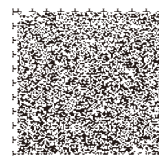
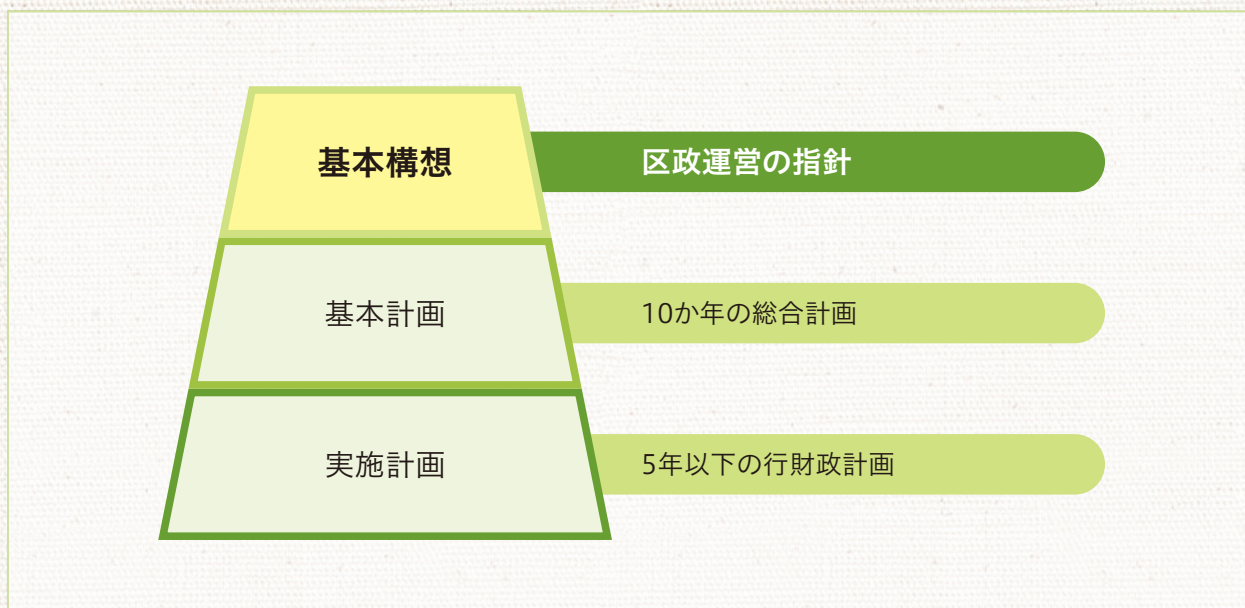


第2章 目指す時期と推進のための計画

この基本構想の実現を目指す時期は、21世紀の半ばである20年後の2040年を目途とします。ただし、この間に社会経済状況や目黒区を取り巻く環境が大きく変化したときには、基本構想を見直すこととします。

基本構想の下に、構想実現のための政策に関する10か年計画の基本計画、基本計画に定める政策を具体化する5年以下の行財政計画である実施計画を定め、これらを目黒区の長期計画とします。また、長期計画の実施による成果を客観的に、わかりやすく検証することができるように、主要な施策・事業に数値目標を設定し、評価を行いながら、計画を推進します。

■長期計画の体系図



第3章 まちの将来像

おおよそ20年先に目指す「まちの将来像」を次のとおり定めます。

〈将来像〉

『さくら咲き 心地よいまち ずっと めぐる』

〈将来像の考え方〉

目黒区は、便利で治安が良く、落ち着いたある住宅地とにぎわいのある商業地とが共存する「暮らしやすいまち」です。こうした住環境とともに、目黒の良好な環境の象徴ともいべきまちのみどりや点在する歴史・文化資源、そして様々な地域の活動なども、後世に引き継いでいかなければなりません。

また、多様な区民が暮らすまちだからこそ、多様性が生かされ、誰一人取り残されることなく、安心して生き生きと自分らしく暮らし続けられる地域社会を、区民と区が共に力を出し合って築いていくことが求められます。

将来像に示した「さくら咲き」は、目黒らしさという視点を踏まえて、みどり豊かな環境とそこで暮らす区民の笑顔を「さくら」に例え、時代を通じて花が咲き誇る姿をイメージして表したものです。

目黒区は、将来にわたり社会や環境が目まぐるしく変化する中であっても、地域で暮らす人や働く人、学ぶ人はもちろん、訪れる人も、誰にとっても、いつでも、いつまでも「心地よい」と感じることができるまちを目指します。

